

特250

514

十二年三月

國蠶系原蠶種並交雜種の性狀に就て

神奈川縣蠶業試験場



始



特250
5A

目次

一、國蠶系原蠶種ノ性狀

國蠶歐十九號
 國蠶支十七號
 國蠶日八號
 國蠶歐十八號
 國蠶支十六號
 國蠶歐十六號
 國蠶日一一一號
 國蠶支一〇七號
 國蠶日一一〇號
 國蠶支一〇六號
 特性一覽表甲、乙

二、國蠶系各交雜種ノ性狀

國蠶歐十九號×國蠶支十七號
 國蠶日八號×國蠶支十七號
 國蠶支十七號×國蠶支一〇六號
 國蠶歐十八號×國蠶支一〇六號
 國蠶歐十八號×國蠶支十六號
 國蠶歐十六號×國蠶支十六號
 國蠶日一一一號×國蠶支一〇七號
 國蠶日一一〇號×國蠶支一〇六號
 特性一覽表

正誤表

頁	行	誤	正
一七	一	種	種
一〇	二	度	氏
一六	七	間	攝
二九	五	種	種
四〇	八ノ下段	統	統

國蠶歐十九號性狀の概要

原種名 國蠶歐十九號(春蠶用)

化性 一化性

系統 歐々固定種

來歴 本種は劣性白繭にして昭和九年國蠶支十七號と組合せ春蠶用として配付せるものなり

蠶兒 蠶蠶は暗褐色を呈し蠶兒は青白色にて淡形又は姫蠶を混合し歐羅巴種としては蠶体小なるも

食桑活潑ならず往々蠶座の周邊に匍ひ出す傾向あり

蠶繭 成繭は稍細俵形にして繭層頗る厚く縮皺密なり、繭色は錆色を帯たる白なり

蠶卵 越年卵色は帯灰藤紫色にして放尿のため卵面を汚す

種繭一疋より卵量約五九瓦を採種し得るなり

一、蠶兒

イ、蠶量一瓦頭數 二、〇〇〇頭

ロ、減蠶歩合 二〇、九%

ハ、對蠶量一瓦給桑量 五〇疋

ニ、一萬頭上繭收量 一、三二疋

ホ、同功繭歩合 〇、八%

一、蠶卵

イ、一蛾産卵數 五五〇粒

ロ、一瓦卵數 一四〇〇粒

一、催青日數 攝氏二十二三度にて十三日間

一、飼育日數 攝氏二十二、三度にて二十九日より三十一日間

一、上簇より多發蛾迄 二十五度にて二十日間

一、蠶繭

イ、上繭一立顆數 九四顆

ロ、全繭量 一、八瓦

ハ、繭層量 三八、六廻

ニ、繭層歩合 二一、三%

ホ、一粒繰絲長 八六〇回

ヘ、一粒繰絲量 二八、八廻

ト、一粒繰織度 二、七〇D

チ、發蛾歩合 八八、一%

國蠶支十七號性狀の概要

原種名 國蠶支十七號(春蠶用)
 化性 一化性
 系統 支々固定種
 來歴 本種は支々一、二化交雜固定種にして昭和九年國蠶歐十九號、國蠶日八號、國蠶支一〇六號と組合せ春蠶用として配付せるものなり
 蠶兒 蟻蠶は暗褐色を呈し蠶兒は青白色にて姬蠶なり
 蠶繭 成繭は楕圓形にして純白なり
 蠶蛾 本種は發蛾に當り往々脱出し得ざるものあり
 蠶卵 越年卵は帶綠藤紫色にして種繭一疋より普通卵重約六〇瓦を採種し得るなり、稀に生種を生ずることあり

一、蠶兒

一、蠶繭

イ、蟻量一瓦頭數	二五〇〇頭	イ、上繭一立顆數	七二顆
ロ、蠶減歩合	一四、八%	ロ、全繭量	二、九瓦
ハ、對蟻量一瓦給桑量	五三疋	ハ、繭層量	三七、一應
ニ、一萬頭上繭收量	一四、八疋	ニ、繭層歩合	二〇、二%
ホ、同功繭歩合	五、四%	ホ、一粒繰絲長	九五〇回
一、蠶卵		ヘ、一粒繰絲量	二九、九應
イ、一蛾產卵數	六三〇粒	ト、一粒繰織度	二、五四D
ロ、一瓦卵數	一八〇〇粒	チ、發蛾歩合	七二、九%

一、催青日數

攝氏二十三度にて十二日間

一、飼育日數

攝氏二十三度にて二十七日より二十八日間

一、上蔭より多發蛾迄

攝氏二十五度にて十五、六日間

國蠶日八號性狀の概要

國蠶日八號性状の概要

原種名 國蠶日八號(春蠶用)

化性 一化性

系統 日支歐固定種

來歴 本種は白繭系日支歐交雜固定種にして昭和九年國蠶支十七號と組合せ春蠶用として配付せるものなり

蠶兒 蠶蠶は暗褐色を呈し蠶兒は紫赤色を帯び濃き有斑なり、蠶體肥大し手觸稍柔軟にして食桑活潑ならず往々桑葉上に匍ひ上る傾向あり、又上簇後營繭迄の動作並に化蛹緩漫なり

繭繭 成繭は白色淺縊依形にして尖味を有し縮皺粗なり

蠶蛾 蛾は交尾中往々にして離れ易く且産卵を急ぐ傾向あり

蠶卵 越年卵色は黒味ある藤紫色にして綠色のものを混するあり、種繭一疋より卵量約七〇瓦を採種し得るなり

一、蠶兒

イ、蠶量一瓦頭數 二二〇〇頭

ロ、減蠶歩合 二五、四%

ハ、對蠶量一瓦給桑量 五二疋

ニ、一萬頭上繭收量 一六、三疋

ホ、同功繭歩合 一、五%

一、蠶卵

イ、一蛾産卵數 六三〇粒

ロ、一瓦卵數 一六〇〇粒

一、催青日數 攝氏二十三度にて十三日間

一、飼育日數 攝氏二十二三度にて二十八日より三十日間

一、上簇より多發蛾迄 度間攝氏二十五度にて十八日より十九日間

一、繭繭

イ、上繭一立顆數 八三顆

ロ、全繭量 二、三瓦

ハ、繭層量 四三、七疋

ニ、繭層歩合 一九、一%

ホ、一粒繰絲長 九〇〇回

ヘ、一粒繰絲量 三四、三應

ト、一粒繰織度 三、〇九D

チ、發蛾歩合 八九、八%

國蠶歐十八號性狀の概要

原種名 國蠶歐十八號(春蠶用)

化性 一化性

系統 歐々固定種

來歴 本種は優性白繭種にして昭和六年國蠶支一〇六號及昭和七年國蠶支十六號と組合せ春蠶用として配付せるものなり

蠶兒 蟻蠶は暗褐色を呈し蠶兒は青白色にして稍赤味を帯び姫蠶と淡い形蠶とを混す

蠶繭 成繭は淺縊の俵形にして縮皺粗く白色なり

蠶卵 越年卵色は帶灰藤紫色にして種繭一疋より普通、卵量約五一瓦を採種し得るなり

一、蠶兒

イ、蟻量一瓦頭數 二二〇〇頭

ロ、減蠶歩合 一四、三%

ハ、對蠶量一瓦給桑量 四九疋

ニ、一萬頭上繭收量 一七、九疋

ホ、同功繭歩合 一、二%

一、蠶卵

イ、一蛾産卵數 五三〇粒

ロ、一瓦卵數 一五〇〇粒

一、催青日數 攝氏二十三度にて十三日間

一、飼育日數 攝氏二十三度にて三十日より三十一日間

一、上蔭より多發蛾迄 攝氏二十五度にて十九日より二十日間

一、蠶繭

イ、上繭一立顆數 八六顆

ロ、全繭量 二、一瓦

ハ、繭層量 三九、七疋

ニ、繭層歩合 一九、〇%

ホ、一粒繰絲長 八一〇回

ヘ、一粒繰絲量 三一、一疋

ト、一粒繰織度 三一、〇D

チ、發蛾歩合 八八、九%

國蠶支十六號性狀の概要

原種名 國蠶支十六號(春蠶用)
 化性 一化性
 系統 支那種
 來歴 本種は支那金黃種より選出せるものにして昭和七年國蠶歐十六號又は國蠶歐十八號と組合せ春蠶用として配付せるものなり
 蠶兒 蟻蠶は暗褐色を呈し蠶兒は帶黃白色にして蠶姫なり
 第五齡の經過稍長く往々三眠蠶を生ずることあり
 蠶繭 成繭は楕圓形にして縮皺粗く金黃色なり
 蠶卵 越年卵色は藤紫色にして往々淡色のものを混す
 種繭一疋より卵量約八〇瓦を採種し得るなり

一、蠶兒

イ、蟻量一瓦頭數 二四〇〇頭

ロ、減蠶歩合 一七、〇%

ハ、對蟻量一瓦給桑量 五〇疋

ニ、一萬頭上繭收量 一五、四疋

ホ、同功繭歩合 三、一%

一、蠶卵

イ、一蛾産卵數 六七〇粒

ロ、一瓦卵數 一七〇〇粒

一、催青日數 攝氏二十三度にて十二日間

一、飼育日數 攝氏二十三度にて二十八日より二十九日間

一、上簇より多發蛾迄 攝氏二十五度にて十八日間

一、蠶繭

イ、上繭一立顆數 八六顆

ロ、全繭量 一、九瓦

ハ、繭層量 三六、〇應

ニ、繭層歩合 一九、六%

ホ、一粒繰絲長 八二〇回

ヘ、一粒繰絲量 二九、九應

ト、一粒繰織度 二、九五D

チ、發蛾歩合 八五、二%

國蠶歐十六號性状の概要

一二

原種名 國蠶歐十六號(春蠶用)

化性 一化性

系統 歐羅巴種

來歴 本種は歐羅巴黃繭種より選出せるものにして昭和三年國蠶支十三號と昭和四年國蠶支十四號

と昭和七年國蠶支十六號と組合せ春蠶用として配付せるものなり

蠶兒 蠶意は暗褐色を呈し蠶兒は帶黃白色にして有斑なれ共濃淡あり第五齡期の經過長し

繭繭 成繭は長味の依形にして縮皺粗く肉黃色なり

蠶卵 越年卵色は帶灰藤紫色にして帶綠藤紫色を混入する事あり、種繭一疋より普通卵量約五〇瓦

を採種し得るなり、産卵は稍長時間を要せり

一、蠶兒

イ、蟻量一瓦頭數 一七〇〇頭

ロ、減蠶歩合 一六、八%

ハ、對蟻量一瓦給桑量 五四疋

ニ、一萬頭上繭收量 一九、一疋

ホ、同功繭歩合 〇、六%

一、蠶卵

イ、一蛾産卵數 六〇〇粒

ロ、一瓦卵數 一三〇〇粒

一、催青日數 攝氏二十三度にて十三日間

一、飼育日數 攝氏二十三度にて三十二日より三十三日間

一、上簇より多發蛾迄 攝氏二十五度にて二十二日より二十四日間

一、繭繭

イ、上繭一立顆數 八五顆

ロ、全繭量 二、四瓦

ハ、繭層量 四三、九疋

ニ、繭層歩合 一八、三%

ホ、一粒繰絲長 九〇〇回

ヘ、一粒繰絲量 三二、九疋

ト、一粒繰織度 二、九七D

チ、發蛾歩合 七六、六%

國蠶日一一一號性狀の概要

原種名 國蠶日一一一號(夏秋蠶用)

化性 二化性

系統 日支固定種

來歴 本種は日本二化蠶と支那準多化蠶との交雜固定種にして昭和九年國蠶支一〇七號と組合せ夏秋蠶用として配付せるものなり

蠶兒 蠶蠶は暗褐色を呈し蠶兒は青白色にして形蠶なるも稀には姬或は飛白を混合する事あり又往々にして三眠蠶を生ずることあり

蠶繭 成繭は俵形にして縮皺粗く白色なり左の性狀表は初秋成績を示せり

蠶卵 越年卵は帯褐色藤紫色して種繭一疋より普通卵量約七八瓦を採種し得るも國蠶日一一一〇號に比し生種を生じ易し

一、蠶繭
イ、上繭一立顆數 一〇五顆
ロ、全繭量 一、五瓦
ハ、繭層量 二八、三厘
ニ、繭層歩合 一八、五%
ホ、一粒繰絲長 七七〇回
ヘ、一粒繰絲量 二一、三厘
ト、一粒繰織度 二、二五D
チ、發蛾歩合 八九、一%

一、蠶兒

イ、蠶量一瓦頭數 二三〇〇頭

ロ、減蠶歩合 二四、五%

ハ、對蠶量一瓦給桑量 五一疋

ニ、一萬頭上繭收量 一〇、〇疋

ホ、同功繭歩合 六、六%

一、蠶卵

イ、一蛾産卵數 五五〇粒

ロ、一瓦卵數 一九〇〇粒

一、催青日數 攝氏二十五度にて九日間

一、飼育日數 攝氏二十五度にて二十四日より二十五日間

一、上簇より多發蛾迄 攝氏二十五度にて十七日間

國蠶支一〇七號性狀の概要

國蠶支一〇七號性狀の概要

原種名 國蠶支一〇七號(夏秋蠶用)

化性 二化性

系統 支々固定種

來歴 本種は支々交雜定固種にして昭和九年國蠶日一一一號と組合せ夏秋蠶用として配付せるものなり

蠶兒 蠶蠶は暗褐色を呈し蠶兒は白色にして形蠶なるも稀に姬蠶を混す

蠶繭 成繭は楕圓形にして白色なり左の性狀表は初秋の結果を示せるものなり

蠶卵 越年卵は藤紫色にして帶綠藤紫色又は綠色を混す種繭一疋より卵量約六九瓦を得るなり

一、蠶兒

イ、蠶量一瓦頭數 二五〇〇頭

ロ、減蠶歩合 二七、八%

ハ、對蠶量一瓦給桑量 四七疋

ニ、一萬頭收繭量 一一、二疋

ホ、同功繭歩合 三、四%

一、蠶卵

イ、一蛾産卵數 五七〇粒

ロ、一瓦卵數 一、九〇〇粒

一、催青日數 攝氏二十五度にて九日間

一、飼育日數 攝氏二十五度にて二十二日間

一、上簇より多發蛾迄 攝氏二十五度にて十五日間

國蠶日一一〇對種の大要

一、蠶繭

イ、上繭一立顆數 一〇一顆

ロ、全繭量 一、五瓦

ハ、繭層量 二七、三疋

ニ、繭層歩合 一八、七%

ホ、一粒線絲長 七九〇回

ヘ、一粒線絲量 二一、五疋

ト、一粒線織度 二、二一D

チ、發蛾歩合 八六、四%

國蠶日一一〇號性狀の概要

原種名 國蠶日一一〇號(夏秋蠶用)

化性 二化性

系統 日本種

來歴 本種は日本二化性白繭より選出せるものにして大正十四年國蠶支一〇二號又は國蠶支一〇三

號、昭和四年國蠶支一〇五號と組合せ、夏秋蠶用として配付したるものなり

蠶兒 蠶蠶は暗褐色を呈し蠶兒は青白色にして形蠶なり

蠶繭 成繭は依形にして白色なり左の性狀表は初秋の成績なり

蠶卵 越年卵は藤紫色にして種繭一疋より普通卵量約七二瓦を採種し得るなり

一、蠶兒	二五〇〇頭	一、蠶繭	一〇三顆
イ、蠶量一瓦頭數	二五〇〇頭	イ、上繭一立顆數	一九、六瓦
ロ、減蠶歩合	一九、〇%	ロ、全繭量	二五、八廻
ハ、對蠶量一瓦給桑量	四九疋	ニ、繭層歩合	一六、〇%
ニ、一萬頭上繭收量	一一、六疋	ホ、一粒繰絲長	五九〇回
ホ、同功繭歩合	八、六%	ヘ、一粒繰絲量	一九、三廻
一、蠶卵		ト、一粒繰織度	二、六一D
イ、一蛾産卵數	五七〇粒	チ、發蛾歩合	九二、〇%
ロ、一瓦卵數	一九〇〇粒		

- 一、催青日數 攝氏二十五度にて九日間
- 一、飼育日數 攝氏二十五度にて二十四日間
- 一、上簇より多發蛾迄 攝氏二十五度にて十六日間

國蠶支一〇六號性狀の概要

國蠶支一〇六號性狀の概要

原種名 國蠶支一〇六號(春秋兼用)

化性 二化性

系統 支那種

來歴 本種は支那二化性白繭種より選出せるものにして昭和六年國蠶歐十八號又は國蠶支十五號と

昭和九年國蠶支十七號と組合せ春蠶用として又昭和六年國蠶日七號と組合せ夏秋蠶用として

配付せるものなり

蠶兒 蟻蠶は暗褐色を呈し蠶兒は青白色にして姬蠶なり

繭繭 成繭は楕圓形にして白色なり、左の性狀表は初秋の結果を示せるものなり

蠶卵 越年卵は淡藤紫色なるも稀に帶綠藤紫色を混ぜり

種繭一疋より普通卵量約六三瓦を得るなり

五式〇回
二五、八廻
一六、六瓦
一〇三回

一、蠶兒

イ、蟻量一瓦頭數

二五〇〇頭

ロ、減蠶歩合

一五、〇%

ハ、對蠶量一瓦給桑量

四六疋

ニ、一萬頭上繭收量

一〇、五疋

ホ、同功繭歩合

四、〇%

一、蠶卵

イ、一蛾産卵數

五三〇粒

ロ、一瓦卵數

一九〇〇粒

一、催青日數

攝氏二十五度にて九日間

一、飼育日數

攝氏二十五度にて二十二日間

一、上蔭より多發蛾迄

攝氏二十五度にて十四日間

一、繭繭

イ、上繭一立顆數

一〇〇顆

ロ、全繭量

一、四瓦

ハ、繭層量

二四、三廻

ニ、繭層歩合

一八、二%

ホ、一粒繰絲長

七四〇回

ヘ、一粒繰絲量

一八、五廻

ト、一粒繰織度

三、〇一D

チ、發蛾歩合

八八、三%

特性一覽表 甲

品名	項目	化性	系統	蠶兒斑紋	蠶形	蠶色	日催數	日飼數	上蔭ヨリ多
國蠶歐十九號	一化性	歐々固定種	淡形又ハ姫ヲ混	稍細キ	白	一三日	三〇日内外	二〇日	
國蠶支十七號	一化性	支々固定種	依	依圓形	白	一二日	二八日内外	一六日	
國蠶日八號	一化性	日支歐固定種	淺依ア	淺依ア	白	一三日	三〇日	一九日内外	
國蠶歐十八號	一化性	歐々固定種	淺依ア	淺依ア	白	一三日	三〇日内外	二〇日内外	
國蠶支十六號	一化性	支那種	楕圓形	楕圓形	金黃	一二日	二九日内外	一八日	
國蠶歐十六號	一化性	歐羅巴種	長味ア	長味ア	肉黃	一三日	三二日内外	二三日内外	
國蠶日一一號	二化性	日支固定種	飛白ヲ混ズルコトアリ	依圓形	白	九日	二四日内外	一七日	
國蠶支一〇七號	二化性	支々固定種	形ニ混ズ	楕圓形	白	九日	二四日内外	一五日	
國蠶日一〇號	二化性	日本種	楕圓形	依圓形	白	九日	二四日	一六日	
國蠶支一〇六號	二化性	支那種	楕圓形	楕圓形	白	九日	二二日	一四日	

特性一覽表 乙

品名	項目	蠶量數	減合	同功合	一卵數	對一數	上蔭數	繭合層	糸長	織度	發合
國蠶歐十九號	二、〇〇〇	二〇、九	〇、八	五五〇	一、四〇〇	九四	二一、三	八六〇	二、七〇	八八、一	
國蠶支十七號	二、五〇〇	一四、八	五、四	六三〇	一、八〇〇	七二	二〇、二	九五〇	二、五四	七二、九	
國蠶日八號	二、二〇〇	二五、四	一、五	六三〇	一、六〇〇	八三	一九、一	九〇〇	三、〇九	八八、八	
國蠶歐十八號	二、一〇〇	一四、三	一、二	五三〇	一、五〇〇	八六	一九、〇	八一〇	三、一〇	八八、九	
國蠶支十六號	二、四〇〇	一七、〇	三、一	六七〇	一、七〇〇	八六	一九、〇	八二〇	二、九五	八五、二	
國蠶歐十六號	一、七〇〇	一六、八	〇、六	六〇〇	一、三〇〇	八五	一八、三	九〇〇	二、九七	七六、六	
國蠶日一一號	二、三〇〇	二四、五	六、六	五五〇	一、九〇〇	一〇五	一八、五	七七〇	二、二五	八九、一	
國蠶支一〇七號	二、五〇〇	二七、八	三、四	五七〇	一、九〇〇	一〇一	一八、七	七九〇	二、二一	八六、四	
國蠶日一〇號	二、五〇〇	一九、〇	八、六	五七〇	一、九〇〇	一〇三	一六、〇	五九〇	二、六一	九二、〇	
國蠶支一〇六號	二、五〇〇	一六、〇	四、〇	五三〇	一、九〇〇	一〇〇	一八、〇	七四〇	二、〇一	八八、三	

一、人工孵化法に就て

甲、即時鹽酸孵化法

即時鹽酸孵化法の場合には産卵後攝氏約二五度（華氏七七度の室温に二〇時間置きたる蠶卵は別表に示せる時間、液温攝氏四六、一度（華氏一一五度）比重一、〇七五の鹽酸に浸漬す

品名	浸漬時間		備考
	中心時間	有效範圍	
國蠶歐十九號	五分	四—六分	此ノ場合ニハ上蔕後發蛾迄ノ保護温度ヲ攝氏二五度ニ保ツテ適當トス 乙ノ冷蔵ノ場合モ同様ナリ
國蠶歐十八號	四分	三—五分	
國蠶歐十六號	五分	四—六分	
國蠶日八號	四分	三—五分	
國蠶支十七號	五分	三—七分	
國蠶支十六號	五分	四—六分	
國蠶日一一號	五分	三—一〇	
國蠶日一一〇號	五分	三—七分	
國蠶支一〇七號	五分	三—七分	
國蠶支一〇六號	四分	三—七分	

乙、冷蔵鹽酸孵化法

一、冷蔵鹽酸孵化法の場合には産卵後攝氏二五度の室温に置きたる蠶卵を四八時間後に攝氏五度の所に移し二〇—六〇日後液温攝氏四七、八度、比重一、一〇の鹽酸に四分間浸漬す

二、短期冷蔵（二〇日以内）の場合には即時浸酸を行ひ之を冷蔵す 即ち浸酸後攝氏二五度の室温に約四〇時間置きたる後攝氏五度にて二〇日以内冷蔵す

二、卵の保護並に産卵に就て

- 一、催青温度を攝氏二五度以上に保たざる時は國蠶支十七號、國蠶日一一一號國蠶支一〇六號については生種を混生する事あり、又國蠶歐十八號×國蠶支一〇六號、國蠶支十七號×國蠶支一〇六號、國蠶日一一一號×國蠶支一〇七號、國蠶日一一〇號×國蠶支一〇六號については生産滿不良となる
- 二、一、二化及二化二化交雜種については催青卵又は蟻蠶を冷蔵する場合は成滿不良となる
- 三、國蠶歐十六號の産付には普通より長き時間を要するが故に收蛾時期を遅くなすべし

三、三眠蠶に就て

國蠶日一一一號及其交雜種には稀に三眠蠶を混生することあるも催青温度を攝氏二五度以上となし稚蠶期の高温多湿及び軟葉給與を避くれれば之を除去するか或は僅少ならしむることを得

目錄

第一編 緒論 第一章 緒論 1

第二章 緒論 2

第三章 緒論 3

第四章 緒論 4

第五章 緒論 5

第六章 緒論 6

第七章 緒論 7

第八章 緒論 8

第九章 緒論 9

第十章 緒論 10

第十一章 緒論 11

第十二章 緒論 12

第十三章 緒論 13

第十四章 緒論 14

第十五章 緒論 15

總編第十七卷 國語學

國蠶歐十九號×國蠶支十七號

交雜種名 交雜國蠶歐十九號
國蠶支十七號

化性 一化性

系統 支歐交雜種

來歴 本種は絲量多く小類尠く織度稍太き白繭交雜種にして昭和九年春蠶用として指定組合せとなしたるものなり

蠶兒 蟻蠶は茶褐色又は暗褐色を呈し蠶兒は青白色にして姫蠶に淡形を混入す、此の品種は低溫に對する抵抗力弱く殊に四齡中低溫に遭遇せしむる時は半脫皮蠶を生じ易く作柄も不良なるを以て壯蠶期の屋外飼育を避け七十度を降らざる溫度にて飼育するをよしとす

蠶繭 桑葉は稚蠶より比較的成熟せるものを使用し軟葉給與をなさざること尙食桑稍不活潑なるを以て給桑過多に陥らざる様注意すること特に餉食當時に於て然り
成繭は楕圓形にして稍錆色を帶したる白繭なり

一、蠶兒

イ、蟻量一瓦頭數	二二七〇頭
ロ、飼育日數	二九、日
ハ、飼育溫度	七三、〇度
ニ、減蠶歩合	一六、六%
ホ、蟻量一瓦給桑量	七九疋
ヘ、一萬頭上繭收量	一六、一疋
ト、給桑一疋當上繭收量	四五瓦
チ、同功繭歩合	六、三%

一、蠶繭

イ、上繭一立顆數	八一顆
ロ、全繭量	二、二瓦
ハ、繭層量	四二、三廻
ニ、繭層歩合	一九、五%
ホ、一粒繰絲長	九二〇回
ヘ、一粒繰絲量	三六、四廻
ト、一粒繰織度	三一、七D

國蠶日八號×國蠶支十七號

交雜種名 交雜國蠶日八號
國蠶支十七號

化性 一化性

系統 日支歐交雜種

來歴 本種は糸量多く類少く織度稍太き白繭交雜種にして昭和九年春蠶用として指定組合せと爲したるものなり

蠶兒 蟻蠶は暗褐色を呈し蠶兒は紫赤色を帯び淡き有斑なり

桑葉は國蠶歐十九號×國蠶支十七號と同様充實せるものを使用し給桑過多に失し冷濕に陥らざる様注意すること

繭繭 繭形は豊大にして淺縊を有せる白繭なり

一、蠶兒

イ、蟻量一瓦頭數	二〇七〇頭
ロ、飼育日數	二九日
ハ、飼育溫度	七三、二度
ニ、減蠶歩合	一九、六%
ホ、蟻量一瓦給桑量	七二疋
ヘ、一萬頭上繭收量	一七、〇疋
ト、給桑一疋當上繭收量	四九瓦
チ、同功繭歩合	四、六%

一、繭繭

イ、上繭一立顆數	六九顆
ロ、全繭量	二、三瓦
ハ、繭層量	四三、七廻
ニ、繭層歩合	一八、七%
ホ、一粒繰絲長	九五〇回
ヘ、一粒繰絲量	三六、五廻
ト、一粒繰織度	三、〇七D

國蠶支十七號×國蠶支一〇六號

國蠶支十七號×國蠶支一〇六號

交雜種名 交雜國蠶支十七號
 國蠶支一〇六號
 化性 一化性(反交は二化性)
 系統 支々交雜種

來歴 本種は昭和四年、五年に於て指定組合せとしたる國蠶支十五號×國蠶支一〇五號及國蠶支一〇六號に代るべき織度細く絲質の良好なる一、二化白繭交雜種として昭和九年春蠶用として指定組合せとなしたるものなり

蠶兒 蟻蠶は暗褐色を呈し蠶兒は青白色の姫蠶にして經過早きものなり

食桑活潑にして經過短きを以て桑付を早め且つ給桑不足に陥らざる様注意するを要す故に稚蠶中は箱飼等の方法に依り充分食桑せしむること

繭繭 繭れなき楕圓形にして純白なり

一、蠶兒

一、蠶繭

一、蠶兒

イ、蟻量一瓦頭數 二四三〇頭

ロ、飼育日數 二七日

ハ、飼育溫度 七三、二度

ニ、減蠶歩合 一五、二%

ホ、蟻量一瓦給桑量 七六疋

ヘ、一萬頭上繭收量 一四、四疋

ト、給桑一疋當上繭收量 四五瓦

チ、同功繭歩合 九、二%

一、蠶繭

イ、上繭一立顆數 八一顆

ロ、全繭量 一、八瓦

ハ、繭層量 三四、三廻

ニ、繭層歩合 一八、九%

ホ、一粒繰絲長 八八〇回

ヘ、一粒繰絲量 二七、四廻

ト、一粒繰織度 二、六四D

チ、同功繭歩合 九、二%

國蠶歐十八號×國蠶支一〇六號

交雜種名 交雜國蠶歐十八號
國蠶支一〇六號

化性 一化性(反交は二化性)

系統 支歐交雜種

來歴 春期一化×一化交雜種にして好結果を收め難き場合の爲に昭和四年指定組合せとしたる國蠶歐十七號×國蠶支一〇五號に代るべき多絲量系一、二化白繭交雜種として昭和六年春蠶用として指定組合せとなしたるものなり

蠶兒 一 蠶量一瓦頭數 二二五〇頭

二 飼育日數 二八日

三 飼育溫度 七三、一度

四 減蠶歩合 二〇、九%

五 蠶量一瓦給桑量 七三疋

六、一萬頭上繭收量 一四、二疋

七、給桑一疋當上繭收量 四三瓦

八、同功繭歩合 四、〇%

一、蠶兒

イ、蠶量一瓦頭數 二二五〇頭

ロ、飼育日數 二八日

ハ、飼育溫度 七三、一度

ニ、減蠶歩合 二〇、九%

ホ、蠶量一瓦給桑量 七三疋

ヘ、一萬頭上繭收量 一四、二疋

ト、給桑一疋當上繭收量 四三瓦

チ、同功繭歩合 四、〇%

一、蠶繭

イ、上繭一立顆數 八五顆

ロ、全繭量 二、〇瓦

ハ、繭層量 三四、八廻

ニ、繭層歩合 一八、〇%

ホ、一粒繰絲長 八六〇回

ヘ、一粒繰絲量 三〇、三廻

ト、一粒繰織度 二、八九D

國蠶歐十八號×國蠶支十六號

交雜種名 交雜國蠶歐十八號
國蠶支十六號

化性 一化性

系統 支歐交雜種

來歴 本種は糸量多く織度太き白繭交雜種にして昭和七年春蠶用として指定組合せとなしたるものなり

蠶兒 蠶蠶は茶褐色又は暗褐色を呈し蠶兒は青白色にして姫蠶に淡形を混す

繭繭 成繭は豊大にして淺縊を有し縮皺粗く繭色稍錆色を呈せる白繭なり

イ、上繭一立顆數 八二顆
ロ、全繭量 二、三瓦
ハ、繭層量 四三、七廻
ニ、繭層歩合 一九、五%
ホ、一粒繰絲長 八九〇回
ヘ、一粒繰絲量 三九、〇廻
ト、一粒繰織度 三、五二D
チ、同功繭歩合 一、六%

一、蠶兒

イ、蟻量一瓦頭數 二二三〇頭

ロ、飼育日數 三〇日

ハ、飼育溫度 七三、一度

ニ、減蠶歩合 一一、五%

ホ、蟻量一瓦給桑量 八一疋

ヘ、一萬頭上繭收量 一八、八疋

ト、給桑一疋當上繭收量 五〇瓦

チ、同功繭歩合 一、六%

一、蠶繭

イ、上繭一立顆數 八二顆

ロ、全繭量 二、三瓦

ハ、繭層量 四三、七廻

ニ、繭層歩合 一九、五%

ホ、一粒繰絲長 八九〇回

ヘ、一粒繰絲量 三九、〇廻

ト、一粒繰織度 三、五二D

チ、同功繭歩合 一、六%

國蠶支十六號×國蠶支十六號

國蠶日一一一號×國蠶支一〇七號

交雜種名 交雜國蠶日一一一號
國蠶支一〇七號

化性 二化性

統系 日支交雜種

來歴 本種は二化二性交雜種を糸量多く絲質良好なるものとして昭和九年夏秋蠶用として指定組合せとなしたるものなり

蠶兒 蟻蠶は暗褐色を呈し蠶兒は青白色にして形蠶なるも稀に姫蠶を混入する事あり

蠶八 繭 成繭は淺縊俵形なるも尖れるものを混入す、縮皺粗く白色なり

イ、蠶量一瓦頭數 二二三〇頭
ロ、飼育日數 二二日—二四日
ハ、飼育溫度 七九、一度—七九、二度
ニ、減蠶歩合 二三、四%—一四、六%
ホ、蠶量一瓦給桑量 五九疋
ヘ、一萬頭上繭收量 一二、八疋—一二、二疋
ト、給桑一疋當上繭收量五〇瓦
チ、同功繭歩合 四、七%—三、一%

備考 上の數字は初秋、下は晩秋を現はす

國蠶日一一一號×國蠶支一〇七號

一、蠶繭

イ、上繭一立顆數 八八顆—九二顆

ロ、全繭量 一、八瓦—一、六瓦

ハ、繭層量 三二、五廻—二七、九廻

ニ、繭層歩合 一八、二%—一六、九%

ホ、一粒繰絲長 七二〇回—七三四回

ヘ、一粒繰絲量 二四、〇廻—二三、四廻

ト、一粒繰織度 二、八六D—二、四四D

國蠶日一一〇號×國蠶支一〇六號

交雜種名 交雜國蠶日一一〇號
國蠶支一〇六號

化性 二化性

系統 日支交雜種

來歴 國蠶日一一〇號×國蠶支一〇五號に代へ昭和八年夏秋蠶用として指定組合せとなしたるものなり

蠶兒 蟻蠶は暗褐色を呈し蠶兒は青白色にして形蠶なり晚秋期に於ける同功繭歩合稍多し

繭繭 成繭は淺楨俵形にして白繭なり

一、蠶兒

イ、蟻量一瓦頭數	一二三三〇頭
ロ、飼育日數	二一日—二三日
ハ、飼育溫度	七九、二度—七九、二度
ニ、減蠶歩合	一三、四%—二一、一%
ホ、蟻量一瓦給桑量	五八疋
ヘ、一萬頭上繭收量	一三、一疋—一〇、一疋
ト、給桑一疋當上繭收量	五一瓦
チ、同功繭歩合	九、七%—一三、九%

備考 上の數字は初秋、下は晚秋を現はす

一、蠶繭

イ、上繭一立顆數	一〇一顆—一〇〇顆
ロ、全繭量	一、七瓦—一、六瓦
ハ、繭層量	二八、〇廻—二六、四廻
ニ、繭層歩合	一七、〇%—一六、一%
ホ、一粒繰絲長	六五五回—六五〇回
ヘ、一粒繰絲量	二三、一廻—二二、六廻
ト、一粒繰織度	二、七七D—二、七七D

終

